

人種表象の日本型グローバル研究

A Japan-based Global Study of Representations of Race

竹沢 泰子 (TAKEZAWA YASUKO)

京都大学・人文科学研究所・教授



研究の概要

本研究は、日本やアジアにおける「見えない人種」をめぐる非視覚表象や、過去から現代に至る科学表象、また「ハーフ」「ミックス」の表象について、欧米の事例とも接合させながら、いかに人種表象により社会的リアリティが生み出されているのかを分野横断的・地域横断的に解明する。

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：人種、人種主義、差別、表象、科学

1. 研究開始当初の背景

生物学的概念としての「人種」の实在性が否定されて久しい。だが、なぜ人種差別は一向に解消の兆しが見えないのだろうか。従来の欧米主導の研究は、皮膚の色などの視覚表象に着目してきた。だが、日本やアジアでは、視覚表象だけでなく、非視覚表象も差別を作り出している。また急速なグローバル化により、複数の文化的背景をもつ子どもたちが日本国内でも増えている。

2. 研究の目的

第一に、人種の視覚表象だけでなく、「血」のイデオロギー等の非視覚表象をも検証し、人種の社会的リアリティが構築されるメカニズムを解明する。さらに、日本やアジアの事例と欧米の事例を接合させながら、そこに通底する人種表象の仕組みを検証する。

第二に、科学表象について、公衆衛生や社会政策との関連において人種をめぐる学知がどのように動員されたかを歴史的に検証するとともに、現代のゲノム研究における集団のラベリングの問題にも目を向ける。

いずれの研究も、本研究の代表者・分担者・連携研究者・研究協力者が、分野横断的な国際共同研究を行い、その成果を国際的に

発信する。同時に、国内においても、日本における人種やマイノリティ集団に対する偏見、差別をめぐる問題の解明に寄与したいと考えている。

3. 研究の方法

本研究では、学際的かつ国際的な共同研究を行う。すなわち、文系理系の様々な分野・領域を専門とする研究者が、広義の「人種」を切り口として、ジェンダーや階級等との交差にも注意を払いながら、年10回以上の研究セミナー等で議論を重ねる。また国際的なネットワークを通して海外の研究者との国際共同研究を行う。

4. これまでの成果

これまで開催した主な国際シンポジウムは、UCLA との合同主催による“Japanese and Asian Americans: Racializations and Their Resistances” (2011年10月13日、カリフォルニア大学 ロサンジェルス校)、「人種神話を解体する」(2012年12月15-16日、国立京都国際会館)、南カリフォルニア大学との共催で“Hapa Japan Scholarly Conference” (2013年4月5日-6日、南カリフォルニア大学) などである。

本研究は、(1)「見えない人種」の比較研究」班、(2)「人種の科学表象」班、(3)「混血／ミックス」表象の比較研究」班、(4)「日系アメリカ人の人種表象」班、(5)「人文学とゲノム研究のインターフェイス」班、(6)「若手研究者 Crossing Boundaries」班という6つの研究班によって進められてきた。

第1～3班は、それぞれの視座から人種表象に関する理論的枠組みを発展させ、その成果として、『人種神話を解体する』と題したシリーズの論文集を出版する。

第4班は、*Racialization and Resistance among Japanese Americans*と題した論文集を、2014年12月にアメリカの大学出版会から刊行する予定である。本論文集は、日米加の第一線で活躍する研究者が、日系アメリカ人の人種化とそれに対する抵抗について対話を積み重ねてきた成果である。

第5班は、“Human Genetic Research, Race, Ethnicity and the Labeling of Populations: Recommendations Based on an Interdisciplinary Workshop”と題した論文(筆頭著者 竹沢泰子)を執筆し、2013年3月に生物医学関連の国際ジャーナルに投稿した。文理融合型の討論をもとに、ゲノム研究における集団のラベリングをめぐる問題を指摘し、具体的提言を行った。

第6班は、若手研究者が主体となり、研究会とイベントを開催し、*Crossing Boundaries: Art and History*を刊行した。

5. 今後の計画

これまでの研究活動では、それぞれの研究班が新たな知見を開拓することを目的にしてきた。今後は各班が積み上げてきた新たな知見をとりまとめて広く社会に発信していく活動をしていく。国内では全3巻論集として出版する。また、海外における出版活動も拡大するとともに、国際シンポジウム等を通じて本研究の成果を国際的に発信し、国際的な対話を促進していきたい。

学術書の出版計画

1) シリーズ『人種神話を解体する』編集責任、竹沢泰子、東京大学出版会(2014年2～4月刊行予定) :

第1巻『Invisibility 「見えない人種」の表象』(斉藤綾子・竹沢泰子 編著)、

第2巻『Knowledge 科学と社会の共生産』(坂野徹・加藤和人 編著)、

第3巻『Hybridity 「血」の政治学を越えて』(川島浩平・竹沢泰子 編著)

2) *Racialization and Resistance among Japanese Americans*, Yasuko Takezawa (ed.) (2014年刊行予定)

3) *Race Beyond the Western Paradigm*, Yasuko Takezawa (ed.) (2014年刊行予定)

国際シンポジウムの開催予定

1) “Rethinking Race/Racism from Asian Experiences”、モナッシュ大学と共催(2013年5月24日、モナッシュ大学)。

2) “Between and Beyond Two Empires”、
「アジアとアメリカの<帝国>を越えて」、
(主催) 人種表象の日本型グローバル研究、
(共催) Association for Asian American Studies Japan Section (2013年7月27-28日、成城大学)

3) “Race from Global Perspectives”、日本文化人類学50周年記念事業、国際人類学民族学連合、アメリカ人類学会と共催(2014年5月17日、幕張メッセ)。

4) “Race and Ethnicity in East and South Asia” (2015年、デリー大学)。

公開シンポジウム等の開催予定

1) 「中等教育でまなぶ「人種」と「民族」とヒトの多様性」、(主催) 日本学術会議自然人類学分科会・人類学分科会、(共催) 人種表象の日本型グローバル研究(2013年4月27日、日本学術会議)。

6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)

1) Yasuko Takezawa (ed.) *Racial Representations in Asia*. Kyoto: Kyoto University Press/ Trans Pacific Press, 2011. 252p.

2) 『人文學報』100号 特集: 差異の表象 (竹沢泰子編) 京都大学人文科学研究所, 2011. 190p. ほか多数

ホームページ等

URL : <http://race.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>